

TZ 〈ほんの窓〉

第 29 号 (2011. 5. 10) 一橋大学附属図書館高本善四郎氏助成図書コーナー「本の紹介」班

暦をつくる、こよみを読む

『天地明察』（沖方丁著）という小説をご存じでしょうか。

2010 年の本屋大賞を受賞しましたので、タイトルを聞いたことがあるという方もいるのではないのでしょうか。この小説では渋川春海という実在の人物を主人公に、江戸時代に初めて日本独自の暦が作成される様子が描かれています。普段何気なく使っている暦は、いったいどのように作られ、またどのように使われてきたのでしょうか。暦の歴史は古くは古代までさかのぼりますが、今回は日本の江戸時代を中心に「つくる」「読む」「使う」という視点から図書の紹介を行います。*【】は請求記号です

■ 暦をつくる： 暦のいろはから歴史まで

現在日本で使用されている暦は太陽暦であるグレゴリオ暦ですが、明治時代に入って太陽暦が採用されるまでは太陰太陽暦、いわゆる旧暦を使用していました。先ほどの『天地明察』は江戸時代が舞台となっていますので、渋川春海は太陰暦を作成したということになります。それでは、なぜ江戸時代に日本独自の暦を作成することが必要になったのでしょうか。暦について知るための基本図書、江戸時代を中心とした「暦をつくる」ということに関する図書のほか、暦作成に欠かすことのできない知識として天文学と数学の図書を紹介します。

暦とは？

『日本の暦』 渡邊敏夫著. 雄山閣, 1976. 11 【Sc:383】

『暦』 広瀬秀雄編. ダイヤモンド社, 1974 【748:13】

『こよみ』 蓮實重彦著者代表. 東京大学出版会, 1999. 11 (東京大学公開講座 ; 70) 【0800:2:70】

『暦を知る事典』 岡田芳朗 [ほか] 著. 東京堂出版, 2006. 5 【4400:267】

『時とはなにか： 暦の起源から相対論的“時”まで』 虎尾正久著. 講談社, 2008. 8 (講談社学術文庫 ; [1889]) 【0800:34:0889】

暦の歴史

『天文方と陰陽道』 林淳著. 山川出版社, 2006. 8 (日本史リブレット ; 46) 【4400:273】

『江戸の天文学者星空を翔ける： 幕府天文方、渋川春海から伊能忠敬まで』 中村士著. 技術評論社 (知りたいサイエンス ; 032) 【4400:299】

『暦をつくった人々： 人類は正確な一年をどう決めてきたか』 デイヴィッド・E・ダンカン著 ; 松浦俊輔訳. 河出書房新社, 1998. 12 【4400:211】

天文・数学

『こよみと天文・今昔』 内田正男著. 丸善, 1981. 12 (理科年表読本) 【4400:96】

『空と月と暦： 天文学の身近な話題』 米山忠興著. 丸善, 2006. 1 【4400:329】

『新こよみ便利帳： 天文現象・暦計算のすべて』 暦計算研究会編. 恒星社厚生閣, 1991. 4 【4400:327】

『聖なる数学： 算額： 世界が注目する江戸文化としての和算』 深川英俊, トニー・ロスマン共著. 森北出版, 2010. 4 【4100:2873】

『和算小説のたのしみ』 鳴海風著. 岩波書店, 2008. 3 (岩波科学ライブラリー ; 142) 【4100:2627】

■ こよみを読む、こよみを使う：生活必需品だった「こよみ」

暦とは1年の日取りや天文事象を示しただけのものではなく、七夕、中秋の名月などの伝統的な文化や風習とも深い関わりを持っており、それは現代にも続いているものと言えます。日本では昔からこよみは生活に欠かすことのできないものであり、それゆえ江戸時代には文字のみの暦だけでなく絵の中にこよみが隠れている絵暦、さらには絵だけで構成される南部絵暦など様々な形態のものが作られてきました。こよみが民衆の生活にどのように関わり、またどのような形でその年のこよみが伝えられていったのか、関連図書を紹介します。

絵暦の楽しみ

『大小暦を読み解く：江戸の機知とユーモア』 矢野憲一著．大修館書店，2000.11（あじあブックス；025）【4400:210】

『南部絵暦』 岡田芳朗著．法政大学出版局，1980.12（ものと人間の文化史；42）【SAe:43:42】

『師宣-春信』 山口桂三郎，浅野秀剛執筆．大修館書店，1982.1（原色浮世絵大百科事典 / 原色浮世絵大百科事典編集委員会編；第6巻．作品；1）【7200:202:6】．

生活とこよみ

『暦と祭事：日本人の季節感覚』 宮田登 [ほか] 著．小学館，1984.10（日本民俗文化大系 / 網野善彦 [ほか] 編；第9巻）【391:84:9】

『民間暦』 宮本常一著．未來社，1970.3（宮本常一著作集 / 宮本常一著；9）【391:47:09】

『暦に見る日本人の知恵』 岡田芳朗著．日本放送出版協会，2008.3（生活人新書；247）【4400:332】

『年中行事を「科学」する：暦のなかの文化と知恵』 永田久著．日本経済新聞社，1989.3【3800:26】

『旧暦読本：現代に生きる「こよみ」の知恵』 岡田芳朗著．創元社，2006.12【4400:271】

『暦と占いの科学』 永田久著．新潮社，1982.6（新潮選書）【4400:97】

■ 世界のこよみ：独自の暦は日本だけのものではありません

今では世界の多くの国がグレゴリオ暦を採用していますが、過去に独自の暦を作成し現代においても日々の生活と密接な関わりを持っているのは日本だけではありません。アジア・ヨーロッパ・南アメリカなど各地の暦と文化との関わりについての図書を紹介します。

『中国の天文暦法』 藪内清著．平凡社，1990.11【Sc:741】

『占星術師たちのインド：暦と占いの文化』 矢野道雄著．中央公論社，1992.7（中公新書；1084）【0800:25:1084】

『アジアの暦』 岡田芳朗著．大修館書店，2002.12（あじあブックス；049）【4400:225】

『「こよみ」と「暮らし」：第三世界の労働リズム』 小島麗逸，大岩川嫩編．アジア経済研究所（アジアを見る眼；73）【748:27】

『ときの地域史』 佐藤次高，福井憲彦編．山川出版社，1999.1（地域の世界史；6）【2090:201】

『地中海の暦と祭り』 地中海学会編．刀水書房，2002.6（刀水歴史全書；56）【3800:808】

『古代マヤの暦：予言・天文学・占星術』 ジェフ・ストレイ著；駒田曜訳．創元社，2009.4（アルケミスト双書）【1400:1374】

『西暦はどのようにして生まれたのか』 H.マイアー著；野村美紀子訳．教文館，1999.9【2000:187】

**なお、『天地明察』は附属図書館では所蔵していませんが、チーム・えんのしたの運営する「えん」で読むことができます